

# 都留市誕生へ

明治維新で明治二年七月に「甲府県」が、四年十一月に「山梨県」が生まれていますが、続く七、八年に町村合併が進められ、山梨県内では全国に先駆けて合併が行われました。その結果、七百八十か村あった村は一挙に三百四十か村になり、都留市内の十七か村は合併して谷村、禾生、宝、盛里、開地、三吉、桂（東桂）の七つの村が誕生しています。さらに十一年には郡区町村編成法によって、山梨県はこれまでの四郡が九郡になり、谷村に開庁した南都留郡役所が村から持ち込まれる案件に対して指示を与えるようになります。

二十一年に公布された市制町村制では、市町村の完全な自治制が認めれることになりました。これを契機に二十六年に桂村が分村して、境・夏狩・鹿留・十日市場とで「東桂村」となり、二十九年には人口の増加を理由に「谷村町」が誕生しています。昭和初期の谷村町はとい

うと、昭和八年十月十日の時点で戸数千六百三十戸、人口八千六十五人の南都留郡唯一の町で、甲斐絹の生産から消費までの中心地でした。町の上水道も完成し、電燈事業の町営化も実現しています。

しかし、水害、震災、甲斐絹の暴落、戦争、大火など苦難の歴史は続き、やつと昭和二十六年十月、谷村町は町制施行五十五周年の記念式典や祝賀会を盛大に挙行しています。それから三年後、昭和二十八年に施行された町村合併促進法にもとづき、明治・大正・昭和と続いた町村の制度を変えて、新しく市制をしく動きが本格化してきます。二十九年に入ると一挙に加速し、四月二十九日、谷村町、宝村、禾生村、盛里村、東桂村の一町四か村により、「都留市」が誕生しました。市役所は谷村町役場に置いてスタートしました。戸数五千七百六十一戸、人口は三万一千九十八人、面積は一六一・六八平方キロ。塩山市に次いで山梨県4番目の市としての出発です。

「都留」という名前は、いわれのある蔓の名や、この地にたくさん生息したとされる長寿の鳥、鶴の名にあやかっただといわれています。



●旧谷村町役場  
昭和3年、旧庁舎の老朽化にともない、庁舎の隣地に新築し、昭和43年5月に現在の市役所庁舎が建設されるまで、谷村町役場、都留市庁舎としての役割を担った。横山呉服店と並び建つ洋風建築は町のシンボルにふさわしい威容を誇った。